

第十三回 上林曉忌短歌大会

入賞作品

選者 大島 史洋 先生

【特選】

10 非常用防災セット備えるもひとつ気になる吾の萎え足

黒潮町 秋沢香代子

27 雑踏の一人となりて一票の格差を思ふ東京駅に

四万十町 窪田詩都子

51 亡き母の懐かしき字のレシピ見て今年も漬けし薤五キロ

四万十町 橋本 生子

【植田馨賞】

75 ほととぎすの声を聴きつつ熟れし梅八キロ余りを塩漬けにせり

四万十市 林 明子

【秀作】

17 パソコンもスマホもできぬこの指がおはじきなれば生きいき動く

高知市 坂本 瑞枝

19 農に嫁し農で生抜く米寿なりこの硬き手をしみじみとみる

四万十市 宮本 操

30 横断歩道渡り終えたる男の子おじぎして去る紫陽花群れて

黒潮町 谷脇 巴

47 収穫の辣蕪切りに励む姉昭和一桁の世代は強し

黒潮町 澳本 幸美

65 夕されば野焼の煙あかあかと種蒔く時ぞ田を耕さむ

土佐清水市 池 英夫

【佳作】

4 去年をかぎりと思ひしに再びを桜花の下辺を歩むよろこび

四万十市 朝日 照代

9 もっと上もすこし横など言わずとも賢しき孫の手痒みに届く

南国市 岩貞健 一郎

18 「これだけで幸せだね」と五千歩を友と歩みし四万十の川辺

四万十市 植村 誠子

42 一瞬の光追いかけて視野検査受ける私はコメントハンター

土佐清水市 下田 佳子

46 焼き加減なかなかいいね目玉焼ほめて育てる夫の手料理

高知市 上田 昭子

61 貨物船ながき汽笛を鳴らしつつ故郷こきょうの沖を過ぎ行かむとす

土佐清水市 下田 浩

77 焼け跡に亡祖父そふの植ゑたる鳳仙花爪を染めにし戦後の日々よ

四万十市 野田 尚子

80 みどりごの名前は清太風そよぐ里の苗田に蝌蚪こくだう孵りいつ

四万十町 川上 理恵

86 梅雨晴の今日は北山緑冴え初夏のにおいを送り来る風

高知市 柿内 春代

88 幾許もなき命なる義母は夫の昔話しにふふと笑ひぬ

高知市 中山 恭子